

令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中和小学校
校長名	寺崎 康子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">第6学年は、全教科でAB層が70%以上を占め、課題となっていた国語科は、どの学年も学力が上がってきている。特に、第2、4、6学年も全体の70%以上占めている。さらに、第2学年の算数はAB層が86%以上である。昨年度の課題であった第3・4学年の学習の正答率が高くなりよい結果が出ている。振り返り学習、家庭学習の定着に成果と考える。国語科では、どの学年も昨年度よりよい結果が出ている。第3学年の2観点「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」、第4学年の1観点「書く能力」、第5学年の2観点「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」が目標値・全国平均を上回っている。社会科では、第4、6学年が区平均を上回った。特に、第6学年は5ポイント以上高く、「社会的事象への関心・意欲」が高い。算数科では、第3学年が目標値を下回った全観点で目標値・全国平均を上回った。第1学年から3展開による習熟度別授業を実施した成果である。特に、第2、4、6学年は区平均を上回り、課題であった「算数への関心・意欲・態度」は高くなった。「数学的な考え方」も高評価で、少人数指導の効果が見られた。どの学年も普通の授業の中で、根拠をもって考えを発表する指導がよい成果となって現れてきた。理科では、課題であった第5学年が3観点で区平均を上回った。体験活動を大切にした授業の取組の成果である。	<ul style="list-style-type: none">第3学年の2教科ともCD層が約40%を占めている。第4、5学年の社会科でもCD層が全体の50%占めている。国語科では、第3学年「書く能力」が区平均を下回った。また、「国語への関心・意欲・態度」が区平均より5ポイント以上下回っている。第5学年「話す・聞く能力」が課題である。社会科では、第5学年の「観察・資料活用 of 技能」は目標値より高かったが、3観点が目標値を若干下回っている。算数科では、第5学年「算数への関心・意欲・態度」が区平均より下回った理科では、第4学年の「自然事象についての知識・理解」が区平均を下回り課題となった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">「家で、授業の予習や復習をやる」の項目では第4学年を除いて全国平均を上回っている。「テストの見直し」は、どの学年も習慣化してきた。「将来への夢や目標」の項目では、第3学年を除き、全国平均より高くなっている。	<ul style="list-style-type: none">低学年からの家庭学習の定着。第4学年「家族・先生の支え」「規範意識」「学級の絆」の肯定値が全国平均を下回った。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況は一定水準を維持している。特に、第2、6学年は、各教科でどの観点も区平均を上回っている。 ・全校で実施する振り返り学習、誰でも参加できる放課後学習、少人数で学習する基礎基本の定着を図る中和塾が定着してきた。 ・どの学年も全国肯定率が高い。 ・年3回、生活リズム確認旬間で「家庭学習」の項目を入れた意識向上を図り、毎週各学年の学習予定に家庭学習項目を入れて、予習復習の意識向上を図っている。 ・落ち着いた学習環境があり、まとまりのある学級、学習意欲の高い学年は、状況調査及び意識調査もよい結果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を明確にして中和テストを実施する。 ・全校で、振り返り学習の徹底を図る。 ・低学年から家庭学習の定着を図る。学習のやり方を学ばせ、保護者の協力をいただく。 ・4～7月の新学期では、楽しい学級・学年づくりを基盤とし、学習する体制を整える。 ・「学級の規範意識」「学校のきまりを守る」という視点から、教職員の共通理解のもと、学校全体で規範意識を高める。 ・「自分から・自分で」できる風土をつくる。 ・「友達との関わり方」「優しい言葉かけ」など、体験活動や兄弟学年の関わりの中で、人のかかわり方や人の役に立つ体験を通して、心の育成を図る。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力調査の結果から、各教科の課題へ取り組み

【国語】

- 毎日の授業の中で、言語の特徴や使い方について、文章の構成を捉え、内容の要約をする活動を取り入れ、「言語についての知識・理解・技能」を高めていく。
- ◎理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、3年生以上からマイ辞書や辞典を持たせ、普段から活用する。また、調べる活動を取り入れて指導していく。
- 各学年が言葉の意味や漢字の読み書き、語句と語句との関係、接続語や指示語など文章をつなげる言葉について「ふりかえりシート」を活用して、確実に定着させる。
- ◎「読む能力」「書く力」に関しては、作文・文法の「ふりかえりシート」、文章読解のプリントを活用する。また、学校行事や読書指導と関連させて、作文や感想文、意見文など文章全体の構成や展開を考えたりする指導を充実させることで表現力を高めていく。

【社会】

- 児童一人一人に「どうして」という「大きなハテナ？」をもつ課題をもたせ、課題解決的な学習を行い、社会的な見方や考え方を身につけさせるようにする。
- ICT機器を活用して、児童に興味関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。
- ◎各学年、グラフ・絵図・地図などの資料を読み取る活動を授業で多く取り入れる。
- ◎授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえりシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。

【算数】

- 「算数への関心・意欲・態度」を高め、自分の考えを表現する力を身に付けさせるために、具体物を操作したり日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなど、具体的な体験活動を積極的に学習に取り入れていく。
- ICT機器を積極的に活用し、基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせるようにする。
- 児童同士の学び合い活動を取り入れ、「数学的な考え方」及び「数量や図形についての技能」を高めていく。
- ◎授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえりシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。
- ◎習熟度に合わせた問題が自力解決でき、「わかった」という達成感を積み重ねて、さらに発展

展問題に挑戦させる。解き方について説明できるようにする。

【理科】

- 問題を見だし、予想や仮設、観察・実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動を重視し、体験的な活動をもとに知識・技能の習得を目指していく。
- 一人一人の児童が主体的に問題解決の活動を行うことで、「自然事象への関心・意欲・態度」を高める。
- ◎観察・実験を通して自然事象を体験的に学ばせたり科学的な問題に解決しようとする活動を取り入れたりして、日常生活や他教科等との関連を図った学習活動にしていく。
- ◎授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえしシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。

(2) 学力向上のための主な取り組み

【基礎的・基本的な学習内容の定着】

- 教師が全児童のよさを認め、励まし、肯定的な言葉かけや指導を心がけ、互いに支え合う温かい学級づくりに重点を置く。
- 基礎学力の向上を目指して、本校独自の国語科及び算数科の中和テストを年2回実施する。
- 全校学力状況調査（6年）、区学習状況調査（2～6年）、東京都児童の学力向上を図るための調査（5年）の事前指導を行う。前学年の学習内容や調査問題の復習や学力調査の受け方・心構えなどを指導する。
- 単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。
- ◎第1・第2学年においても、3展開の習熟度別指導を実施する。第1学年は後期からの開始とする。特に、DE層の児童に対しては、学習支援指導員と連携し個に応じた学習支援したTT指導を行う。また、授業では確認問題や「ふりかえりシート」等を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。
- ◎基礎学力補充を重点とした「中和塾」、児童が学習意欲をもって参加できる「放課後学習クラブ」を実施する。どちらも学習支援指導員を活用して、「中和塾」では基礎学力の定着、学習内容の補充指導が必要な児童を対象に、週3日国語・算数を中心に基礎・基本の定着を図る。また、「放課後学習」では、週3日児童の学習意欲を高め、自学学習を推進する。
- 夏季休業中（7月）には夏季オープンスクールを実施し、児童の学力向上を図る。

【思考力・判断力・表現力を高める工夫】

- ◎校内研究では「読解力向上のための指導の在り方について ～「取り出す」「まとめる」「考えをもつ」「表現する」活動を通して～」を国語科の読解力の育成に限らず、社会、算数、理科の全4教科で授業を行っていく
- 理科の「観察・実験」の補助として、理科講師を活用しTT指導を行うことで、観察・実験を充実させる。
- ◎読書旬間を年2回（6月・11月）実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。また、お話ボランティアによる読み聞かせ（月1回）を行ったり、低中高学年向けの「チャレンジ読書（推奨本）」を提示したりして、読書に対する興味関心を高め、読み取る力を育成する。
- 各教科の単元や領域の学習内容にそって、外部講師やゲストティチャーや学校支援ネットワーク事業を利用した出前授業などを実施し、講師の経験や体験に基づいた専門的な話を聞くことにより、児童の学習への興味・関心を高めるようにする。単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。

【読解力の向上】

- ◎低中学年中心に、ことば集めやしりとり、ひらがな歌づくり、オノマトペ遊びなど、ことば遊びを行う。
- ◎全学年で週刊新聞読み取りワークシートを活用して、発達段階に合った時事問題を取り上げた記事と読み取り課題に取り組み、読解力を高める。
- 発達段階に合わせたお薦めの本リストを活用し、読書の質と量を上げる
- ◎全学年で「図書館を使った調べる学習」に取り組み、出来た作品を掲示して、見合うことで調べる学習の楽しさやよさを知り、調べる学習への意欲を高める。

【家庭学習習慣の確立】

- 「生活リズム確認旬間」を年3回（5月・9月・1月）設定し、「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭で徹底させる同時に、家庭学習の振り返りを行い、保護者にチェックしてもらうことにより、保護者に対しても家庭学習への意義をもたせ、児童と一緒に家庭学習を含めた生活リズムを整え、学習に向き合う態度を育てる。
- ◎家庭学習に「自学学習」を取り入れ、学びの自主性を育てる。

【教員の授業力向上】

- 特色ある学校づくり推進校として、研究主題「読解力向上のための指導の在り方について 副主題を ～「取り出す」「まとめる」「考えをもつ」「表現する」活動を通して～」に基づいて、各学年が授業研究を行う。
- 夏季休業中には、模擬授業をとして教師一人一人の授業力を高める。習得・活用を意識した授業展開を学び、児童が興味・関心を高める授業を創造する。
- 児童の学習意欲を高めるための OJT 研修（外国語科の授業づくり・効果的な TT 指導の在り方・道徳科の評価のしかた・図書館を使った調べる学習の指導方法・楽しい体育学習の指導方・特別支援教育の指導法など）を実施する。
- 教師のための OJT 研修（ショート・ロング）では、若手教諭の悩みごと、自学研修を基本とするショート OJT を週 1 回、主幹及び中堅教諭が講義するロング OJT を月 1 回開き、教師力を磨く機会とする。

（3）学習指導の重点

- 「中和学習スタンダード」に基づいた学習スタイルを継続していき、学習規律の徹底に努める。
- 1 単位時間に、習得させること（教えること）と活用すること（教えたことを使う活動）を意識した授業に務める。
- 各教科等において、ICT 機器を活用した教材の工夫や指導の充実・改善を図る。

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・低学年からの基本的な学習内容の定着を丁寧に行い、学習意欲を高めていく。(CD 層の減少)
- ・振り返り学習、ステップアップ学習シートの活用し、学力の定着を図る。
- ・学力 (B 層を A 層に) を引き上げる授業改善を行う。
- ・読解力向上に向けて、学年ごとの取り組みを明確化していく。